

ひやくさい

2018年(平成30年)1月発行 No.89

福岡県高齢者福祉生活協同組合

〒812-0025 福岡市博多区店屋町3-23

サカビル2F

TEL(092)282-1431 FAX(092)282-1433

発行責任者:理事長 吉野 高幸

編集責任者:広報委員会

Email: ikiiki00@mba.sphere.ne.jp

ふくし生協

検索



新年を新たな前進の年に!!

理事長 吉野 高幸



明けまして
おめでとうございます
います。

ふくし生協組
合員、職員、利

用者の皆さん、新しい年2018
年を皆さんと手をつないで諸活動
への取り組みを進め、さらに前進
しようではありませんか!

— 昨年のこと —

私達のふくし生協は、一昨年ま
で「赤字」が続いていました。私
は「ロマンと算盤」つまり「算盤
がなければ存在出来ない。ロマン
がなければ存在する意味がない」
という言葉を座右の銘の一つにし
ています。したがって「赤字が続
いている」という状況を見逃すこ
とは出来ません。

そんな中、一昨年の秋の理事会
で経営改善について検討し、人的
配置も検討・実施して経営改善の

取り組みを強化しました。

昨年この「ひやくさい」での新
年の挨拶では「経営改善の取り組
みの結果、経営改善の『兆し』が
見られる。」と報告していました。

その昨年は3月から黒字に転換

して、それ以後黒字が続いていま
す。これは「ふくし生協が存在で
きる」ことを示すもので経営改善
の第一歩を踏み出したと言えま

す。これはふくし生協の全職員、
組合員そして利用者の皆さんの日
常的な取り組みのたまものです。

私はこの新年の挨拶の機会に皆
さんのたゆまない努力と協力に心
からの感謝の意を表します。あり
がとうございました。

— 新年は新たな峰に挑戦しましょ
う! —
昨年の成果は貴重な一歩です
が、それに安住する訳にいかない
のが、現在の安倍内閣の福祉抑

制・切り捨ての政治です。

私達はさらに活動を強め、職員
を増やし、施設を充実させるため
単に黒字にするだけでなく私達が
作った予算を達成することが求め
られます。

皆さんのご協力をよろしくお願
いいたします。

— 今年も事業所にお伺いします —

昨年私は全事業所にお邪魔しま
した。今年は施設を見て廻るだけ
でなく、各事業所で職員、組合
員、利用者の皆さんと懇談出来れ
ばと思っています。

その際はよろしくお願いま
す。





年頭にあたって…

専務理事 稲月 秀雄

新年明けましておめでとうございます。今年も、生活の困りごとにつながる情勢の話題を提供していきますので、よろしくお願いします。

さて、これまで地域包括ケアに関連してお話してきたとおり、2018年度は、「在宅での看取り」への誘導が本格的に始まり、病院からの退院がこれまで以上に促進されます。その影響を受けて、すでに「介護離職」が社会問題化しており、私たち組合員の困りごととして表面化すること考えられます。そこで、2015年度に始まった「生活困窮者の支援制度」をご紹介します。様々な理由によって、生活困窮の状況に陥ってしまった場合や、「介護離職」による困りごとに対応した事例も出始めています。

このような制度ができた背景や活用事例を学習したい場合は、お近くの事業所・支部の窓口やサロン・懇談会などの機会にご相談ください。

(以下、厚生労働省ホームページ抜粋)

生活困窮者自立支援制度では次のような支援を行います。

自立相談支援事業：あなただけの支援プランを作ります。

生活に困りごとや不安を抱えている場合は、まずは地域の相談窓口にご相談ください。支援員が相談を受けて、どのような支援が必要かを相談者と一緒に考え、具体的な支援プランを作成し、寄り添いながら自立に向けた支援を行います。

住居確保給付金の支給：家賃相当額を支給します。

離職などにより住居を失った方、または失うおそれの高い方には、就職に向けた活動をするなどを条件に、一定期間、家賃相当額を支給します。生活の土台となる住居を整えた上で、就職に向けた支援を行います。

就労準備支援事業：社会、就労への第一歩。

「社会との関わりに不安がある」、「他の人とコミュニケーションがうまくとれない」など、直ちに就労が困難な方に6カ月から1年の間、プログラムにそって、一般就労に向けた基礎能力を養いながら就労に向けた支援や就労機会の提供を行います。

家計相談支援事業：家計の立て直しをアドバイス。

家計状況の「見える化」と根本的な課題を把握し、相談者が自ら家計を管理できるように、状況に応じた支援計画の作成、相談支援、関係機関へのつなぎ、必要に応じて貸付のあっせん等を行い、早期の生活再生を支援します。

就労訓練事業：柔軟な働き方による就労の場の提供。

直ちに一般就労することが難しい方のために、その方に合った作業機会を提供しながら、個別の就労支援プログラムに基づき、一般就労に向けた支援を中・長期的に実施する、就労訓練事業（いわゆる「中間的就労」）もあります。

生活困窮世帯の子どもの学習支援：子どもの明るい未来をサポート。

子どもの学習支援をはじめ、日常的生活習慣、仲間と出会い活動ができる居場所づくり、進学に関する支援、高校進学者の中退防止に関する支援等、子どもと保護者の双方に必要な支援を行います。

一時生活支援事業：住居のない方に衣食住を提供します。

住居をもたない方、またはネットカフェ等の不安定な住居形態にある方に、一定期間、宿泊場所や衣食を提供します。退所後の生活に向けて、就労支援などの自立支援も行います。

リレー・エッセイ ③1

「本を読むことの楽しみ」

常務理事(本部事務局長) 増山 弘毅



本を「楽しむ」ようになったのはそれほど昔の事ではあり

ません。評論文や哲学の本、理論書などがもっぱら対象だったそれまでに比べると、指向が180度は変わったでしょうか。ハリーポッターシリーズが最初でした。以後しばらく外国の「魔法もの」に熱中しました。子供たちとの共通の話題ともなり、なるほど本とは子供から大人まで共通のものになるのだなと感心した覚えがあります。それが本を楽しむこととの出会いでしょう。その後病気をし、その回復過程で今度は自分のための本との出会いがあったと思います。有川浩の「阪急電車」

「三匹のおっさん」「三匹のおっさん再び」には胸がスカッと「植物図鑑」では食べられる野草やひびいにおいのする蔓草の名前に驚き、本との新しい出会いとなりました。ま

た、チャンバラものといえますか、特に、佐伯泰英の「居眠り磐音江戸双紙」シリーズ、「酔いどれ小藤次」シリーズその他たくさんの作品は大好きです。江戸の町場の暮らしや人々のやり取り、人情の機微、謀略と正義との戦いなどに引き込まれました。小説の世界とはいえ心を温めてくれて癒し効果抜群です。また、読んだ作品が割とよくテレビ化され、どのような演出になるのかという楽しみも増え、何とも心浮き立つものがあります。

いわゆる「お仕事」小説も興味深い。坂本司「和菓子のアン」「切れない糸」「ワーキングホリデー」、碧野圭の「書店ガール」シリーズ、山本甲士「ひなた弁当」、真保裕一「ローカル線でいこう」等々。書店ガールシリーズでは書店の運営の仕組みや書店員さんたちの仕事ぶりや工夫も知り、ますます書店に行くことが楽しみにになりました。

社会派小説でもある池井戸潤作品、しっかりした取材あつての事でしよが重厚で深いものがあります。テレビでも「倍返しだ!」で有名になった「半沢直樹」シリーズの

ほか、「空飛ぶタイヤ」「下町ロケット」「ルーズベルトゲーム」「架空通貨」などいずれも読みごたえ抜群。畠中恵の作品も肩ひじ張らず読めるのがうれしい。病弱な若旦那と家鳴り(やなり)と呼ばれるかわい子鬼などたくさんの「あやかし」たちの奇想天外な活躍を描く「しゃばけ」シリーズ、名主の息子が主人公の「まんまこと」シリーズにはホッとさせられます。人間の悪意を描くことでは定評の宮部みゆきの作品もおそろしいけど「三島屋変調百物語」シリーズ、「模倣犯」「ブレイブストーリー」「英雄の書」「ステップファザー・ステッ

プ」など面白かった。最近では高田大介の「図書館の魔女」。長編ですが比較文法・対照言語学の専門的視点も入った重厚な作品で驚きました。上橋菜穂子の「守り人」シリーズも面白く、また本屋大賞を受賞した「鹿の王」も「よくもこんな物語を紡ぎだしたなあ」と感心しました。女料理人として成長していく少女を描く高田郁の「濡つくし料理帳」シリーズも泣けました。

暇があれば本を開いてその世界に

入っています。バス通勤時間も本を開きうつかりはまり込み、降りるべきバス停を降り過ぎてしまったことも一度ならずあります。日ごろの運動不足解消と思って20分ほどですが歩きます。

本は手に取って読んでみて内容が初めてわかります。いい作品に巡り合ったときの感動、感激はひとしおです。本屋大賞作品はチェックの定番です。新聞の「今月の新刊」広告欄をチェックする習慣もつきました。これからも本との出会いを楽しんでいきたいと思っています。

漢字クイズ(頭の体操)

《この魚介類名、読めますか》

- | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑩ 鱸 | ⑨ 鰻 | ⑧ 鰻 | ⑦ 鰻 | ⑥ 鰻 | ⑤ 鰻 | ④ 鰻 | ③ 鰻 | ② 鰻 | ① 鰻 |
| ⑪ 鰻 | ⑫ 鰻 | ⑬ 鰻 | ⑭ 鰻 | ⑮ 鰻 | ⑯ 鰻 | ⑰ 鰻 | ⑱ 鰻 | ⑲ 鰻 | ⑳ 鰻 |

(答えは11ページ)

シリーズ

「憲法とわたしたち」

No. 3

「人間らしい生活とはなにか」

求められる国民的憲法実現運動

砂川裁判とともにあった朝日訴訟

「憲法は絵に描いた餅ではない」とした朝日訴訟一審判決は、運動にかかわった人だけでなく、日本社会福祉学会や少なくない議会でも高く評価され、とくに生活保護行政に直接対応する自治体の現場職員が判決を積極的に受け止め、仕事に誇りを持つ人が広まりました。遅まきながらマスコミも判決を支持します。

今日では憲法に否定的な論調が目立つ読売新聞も、判決時は「先の砂川事件を取り扱った伊達裁判長は憲法9条の存在(駐留米軍は憲法九条に違反判決)を思い出させたが、こ

んどの浅沼裁判長は憲法25条の存在を思い起こさせた。憲法は厳として生きている。その脈々たる精神を回復させることは、国民的課題に違いない」と論じています。できれば、読売新聞にはこの視点に立ち戻ってほしいと強く願いますが、やはり無理でしょうかね。

敗訴した国・政府は即座に控訴し

て反撃にですが、一審判決後は一気に生活保護基準を改善します。

「人間らしく生きる」権利の存在が全国的に示され、国民の生存権認識が深まったことが政府の姿勢を変えたのでした。提訴当初は生存権論争に消極的だった弁護士たちも、改めて憲法が持つ力を確信し、人権を具体的に保障させる人権弁護士が多く輩出されていきます。この判決の背景には、いみじくも読売新聞が示したように、最大の人権侵害である戦争につながる米軍基地反対や安保改定反対の国民的運動があったのです。

人権保障の根幹は、「侵害」する権力者に「保障」させること

国政の根幹を揺るがした判決を敵視する政府は様々な妨害をしてきます。最初から関わってきた新井章弁護士に依れば、ひとつはデマ攻撃です。現地検証直前に裁判長が「労組や支援団体が暴動を起こす企てをしているのでは」と弁護士団に質しま

す。あり得ないことで裁判所の心証

を悪くする卑劣なデマは、国民の憲法実現運動を敵視する被告から出たのでしょうか考えられません。また朝日さんが居た療養所の職員への証言の強要や圧力もありました。国に都合のいい証言者を強く求め、原告側の証人にはならないように圧力をかけたリしたといえます。一言でいえば、なりふり構わずに一審判決破棄に執念を燃やしたのです。こうした動きは行政裁判では必ず生じてきます。高裁全体が地裁と違って「どこか厳しく、よそよそしいものがあつた」と述べた新井弁護士の不安は的中し、高裁判決は一審判決を取り消します。「生活保護基準はすこぶる低額」ではあるが「いまだ違法と断定」できないというのです。そして、憲法25条の生存権規定は「プログラム規定」であり、具体的に保障される権利ではないとしたのです。判決後の談話で裁判長は「違法ではないが違法すれすれだった」と釈明にもならない理屈を述べています。高裁の裁判官には「憲法は絵に描いた餅」でしかなかったのです。同時に司法が政治(行政)から独立して存在せずに、逆に政治寄りの司法になりつつあったといえ、上告審では

一層明白となります。

朝日さんは敗訴の報を受け、「人間の活きる権利を声高く、裁判所にわれはぶつけたし」「血痰と動悸はげしき日々なれど 人間裁判に生命をかくる」と闘いへの思いを詠っています。翌年朝日さんは亡くなり、支援活動していた青年が養子になって上告審をたたかいます。しかし、最高裁は、「生活保護受給権は当該個人の一身専属権で、相続することはできないので裁判は終了する」とした上で、裁判長は「見劣りや引け目を感じさせない程度の生活」でよいと述べます。まさに、「人間の尊厳」を軽視した前世紀の福祉観が露呈していました。しかし、朝日訴訟に触発された国民は、「憲法は絵に描いた餅ではない」の立場に立って、果敢な闘いを展開して来ました。現在展開されている「生保費引き下げ」「年金引き下げ」「障害者65才切り下げ」などを許さない憲法実現の闘いがいかに国民的運動になるかが求められています。

(次号に続く)

(ふくし生協組合員・

くさかべやすひさ
日下部 恭久

九条の会福岡県連絡会)

シリーズ

人生の高齢期を考える

戦後70年で変わったこと

No.33

俳人坪内稔典は新聞コラムで、「70数年を生きてきた私の実感」と言い、大きく変わったことを挙げています。①子どもが鼻水を垂らさなくなりました。②ノミ、シラミ、ハエなどがいなくなりました。③火の用心が来なくなりました。④トイレが水洗に変わった。⑤歳末が静かになった。⑥正月がにぎやかになった。⑦ファミリーストラン、コンビニができました。⑧スマホやメールの時代になった。⑨町や駅、電車の中などが明るくきれいになった。⑩スポーツがさかんになった。

そこで筆者もまねてみました。①昨日も今日も子どもの姿を見なかった。②ミツバチも見なくなった。(カメムシは目につく)町中にもイノシシが出没している。③庭で枯葉を集めてたき火もできなくなりました。④ウオシシュレットに慣れてしまい山登りも海外旅行にも行きたくなくなりました。⑤年中商店街はシャッター通りで歳末だって火が消えたようだ。⑥正月は大画面になったテレビの中だけにぎやかだ。⑦加えてイオ

ンやナフコなど大小の量販店が街道沿いにできた。デイサービスもあちこちに。⑧来月で1歳になる孫をiPadのface timeで見つめ合いながらあやしている。かわいい⁽¹⁰⁾。⑨田舎でも車の数が多くなったし、道路はきれいになった。⑩健康体操やら予防運動やら、筋トレやらとうるさい。じつとしていことが悪のようだ。しかたなく今日も日課のスクワットを100回やった。

少子高齢化でこれからの70年はどうなる

ところで筆者の1歳の孫が70歳を超える2090年ころはどうなっているのでしょうか。

①若者はめったに見なくなった。(2人に1人が高齢者、総人口が6千万人を切った、0歳児より100歳以上の方が多くなった)②市街地の周りは荒廃地ばかりでジャングル化しているところもある。サル、イノシシ、鹿、野生化した犬や猫などが跋扈している。動物園も水族館も公園もなくなった。③財政難と若者

不足で消防署がなくなった。警察も海上保安庁も企業も若者の人材がいないので困っている。自衛隊も人が集まらないし武器を揃える予算も乏しいのです。災害救助隊となった。どの分野でも外国人を募集しているが、経済的に発展した周辺国の若者からも相手にされなくなった。

④老朽化した上下水道は修理をしなくなりました。(自治体は税金が集まらず財政難)仕方ないから庭に井戸を掘った。町の決まりで排泄物は薬品で固めて空き地に穴を掘って埋めるか、家庭菜園の肥料にするようになった。ごみ収集の車はもうすでになくなった。電気は自家発電となった。⑤端末で申し込むと空を飛ぶ自動操縦車が食料品から日用品まで配達してくれるようになった。⑥日本ではNHK以外の民放局がなくなり、新聞紙もなくなった。⑦遺体は火葬ではなく科学的に処理するようになった。⑧人のする仕事の大半が自動化されたがサービスは都市に限られたため、農業者以外は都市に集中して住むようになった。北海道は核燃料のゴミ捨て場となった。解体費用がないから各地の原発はコンクリートで覆ったきりで放置することになった。福島県と北海道は無人となった。⑨全国に無住の地域が広が

り人工衛星の動画では、日本の夜に明かりがほとんどなくなった。星空はきれいになった。日本海や東シナ海の離島に住んでいるのは近隣国の人々になった。⑩定年制がなくなり高齢者は働けるだけ働くようになった。

少子化で激減する日本人

「未来の年表 人口減少日本これから起きること」河合雅司(講談社現代新書)では、現在73億5千万人の世界の人口が、2100年には110億人になると推定される一方、日本の少子化は止まらず、人口減による日本崩壊が急速に進んでいる。2040年をピークに高齢者は減っていくが、深刻なのは少子化のため人口が極端に減少していくことだと述べています。この本を読み、つい孫の世代はどんな高齢期を迎えるのかと思ひ、勝手な70年後を描いてみました。

やがて日本人は絶滅危惧種になるおそれがあると言っています。



(次号に続く)
(記・吉野道利)

けいちく支部運営委員会

委員長 西岡 陽

明けましておめでとうございます。

2017年度には、「ふれあいほのぼの祭り」も第十回を迎え雨天の中多くの来場者に恵まれ節目の回を成功させることが出来ました。また、熊本大分の震災の見学ツアーを取り組み、多くの参加者から継続的に取り組める内容にしてほしいと要望があるなど、大成功に終わりました。

2018年は福祉事業者にとって大きな転機になると予想されますが、地域の方々に気軽に足を運んでいただく為の活動に取り組み、安心して老いることが出来る地域づくりを進めていきたいと考えています。

水巻支部運営委員会

委員長 坂元 雅子

明けましておめでとうございます。

支部運営委員会の定例会は、昨年11月で一〇〇回目を迎え8年4ヶ月になりますが、一回も休まず開催してきました。継続は力といえます。

運営委員会、地域サロン、ゆいサポート、断らない介護の積み重ねが昨年の筑豊ブロック実行委員会を取り組んだ「フェスタin水巻・赤とんぼ12周年まつり」の成功に繋がったと思います。今年も力を合わせ、地域でいっそう頼りにされる「赤とんぼ」に成長して行きたいと思っています。

ひまわり支部運営委員会

委員長 小浦みどり

明けましておめでとうございます。

ひまわりはサロン活動の一環として、第2第4月曜日の19時より、生協ホームOHANAのリビングにて、フラダンス教室を行っています。現在の所、職員6名と子ども5名でとても美しい杉山貴子先生の指導の元、楽しく踊っています。子ども達は覚えるのも早いですが、私などは2週間あくと又思い出す事が大変ですが、昨年のけいちく事業所のほのぼの祭りの前には皆で毎晩猛練習をしてなんとか本番を迎える事が出来ました。

今年もサロン活動と共に「ひまわり」の発展と地域づくりを進めていきたいと思っております。

八幡東支部運営委員会

委員長 毛利 義廣

新しい年を迎え運営委員会一同は、気持ちをおたに事業所と地域組合員をつなぐ要の役割を果たすよう頑張る決意をしています。

昨年は、事業存続をかけた待ったなしの年で一定の前進が図られました。が、いまだ道半ばで新しい年に引き継がれます。

ふくし生協創立20周年を来年に控え、心新たに役・職員の奮闘と地域組合員の理解と協力で飛躍を実現したいと思っております。

北九州統括では、元日早々「デイサービスのどか」の移転・開所となり、これまで培ってきた地域の方々との絆を一層深めながら事業を成功させたいと思っております。

二〇一八年(平成三十年) 新年を寿ぎ

あけまして

おめでとう

ございます



各支部運営委員会
委員長一同



直方支部運営委員会

委員長 石田 幸生

直方事業所においては、新拠点への移転から4年目、ようやく安定した業績向上が見られるようになりました。ひとえに本部と事業所職員の尽力と組合員の方々の支援のおかげです。傍らで地域とふくし生協の発展を願う運営委員会として、うれしい限りです。これからは、かかる成果を事業所に向けられる多様なニーズや期待に応える、また厳しい状況下にフル稼働でムリを重ねてきた職場環境の改善や人材育成の糧とし、総じて事業基盤の安定化に注力してほしい。これまでに培われたスキルと実績は、行政や医療機関から「ふくし生協」への好意的な評価として聞いております。ふくし事業、直方事業所の要は人材です。地域発展の担い手として期待は今「ふくし生協」みなさんにあります。業績と共にスタッフも多様に増大しました。適材・適所と適宜・適当、理念やスローガンは掲げずとも、活動として結果として実践されるのが直方流です。今年も心身の健康に留意しつつ、支え合いの心をもって、共に直方らしい直方事業所の相をみつけていきたいと思います。



めくもり支部運営委員会

委員長 森光 則人

新年あけましておめでとうございます。

昨年はふくし生協に於いて、様々な事がおこった、大変な年でした。

ふくし生協だけの努力だけではカバーしきれない情勢の中にあつて、各事業所が厳しい状況に直面しています。

私たち組合員一同も、「介護とは何か」という基本に立ちかえつて、一つずつ、目の前の出来る事から取り組んで参りたいと存じます

青葉支部運営委員会

委員長 木下 研治

明けましておめでとうございます。

月1回開催の運営委員会が立ち上がって5年目になります。昨年発足した運営推進会議をきっかけに、今まで交流のなかった地域住民代表との話し合いも始まりました。サロン活動も定期的に開催され、徐々にではあります。が、地域の方たちにふくし生協を知ってもらえていると感じます。

今年も「ふくし生協理念・冊子」高齢者生協で働く皆さんへ」運営委員会規則をもとに話し合い、地域における活動をさらに広めていく意向です。みなさん、明るく良い年でありますように！

ミナミ支部運営委員会

委員長 水野 勇一

新年明けましておめでとうございます。

本年もミナミ事業所では、地域に根差した介護事業所を目指し地域に貢献できるよう組合員一丸となつて頑張つてまいります。そして何より、利用者様に寄り添った質の高い介護サービスを提供できるよう日々精進し、笑顔絶えないミナミ事業所であり続けたいと思います。高齢であっても、障がいがあつても安心していきいきと暮らせる地域づくりを皆様方と共に協力し、福祉生協の協同の輪を広げていきたいと考えております。本年もミナミ事業所を何卒よろしくお願い申し上げます。

読者のエッセイ

通勤の旅

昨年3月よりJRで通勤するようになりました。19年間走り続けた愛車、黄色のワゴン（イエローグランパ号）を廃車にしたからです。車検を受けるつもりが「この安全装置では車検に通いませんよ！」と指摘され、残念ながら潔くこれを受けとめ、この機会に廃車しようと決めました。それから「通勤の旅」の始まりです。自宅より徒歩にてJR博多駅まで約15分、オフィスへ通勤する人物ウォッチングを楽しみます。

博多駅からは福北豊線にて長者原駅まで朝刊に目を通し、香椎線の宇美行きに乗り換え約10分程で新原駅に到着します。

都会の博多駅から通勤客で賑うタウン雰囲気の長者原駅、そこで乗り換える香椎線では「ゴーゴー」と大きなディーゼル音を響かせて到着します。これはかつて3年間、高校通学で利用した気動車の紛れもない懐かしい「昭和」の音です。そして職場のあるローカル雰囲気いっぱいの新原駅へ。

古希を迎え、あと2年は通勤費名目の旅費を頂きながら、博多駅周辺に群がる同年輩のバスツアー客をしり目に……この旅を楽しめたらなあと思っています。

(記・給食センター 伊藤幸雄)

ふくし生協では、働く仲間を募集しています

「いい人がおるよ!」など地域組合員の皆様のご推薦もお待ちしています!

- 介護スタッフ… 無資格者・未経験者も可(有資格者)
- 看護スタッフ… 准看護師以上
- 訪問ヘルパー… 初任者研修修了者など

お給料や待遇など詳細は面談にて。

【お問い合わせ先】 本部事務局 〒812-0025
福岡市博多区店屋町3-23 サカタビル2F
TEL 092-282-1431

謹賀新年

おめでとうございます

今年も読者参加型の誌面作り及び内容の充実に努力してまいります。



当生協の「ひゃくさい」は読者あつての広報誌です。皆様方のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。(広報委員会)



支部・事業所だより

●三事業所合同組合員バスツアーに感謝●

11月5日(日)、ユネスコ無形文化遺産リストに日本で21番目に登録された「神宿る島・宗像」関連遺産群と、新鮮な海の幸を堪能する三事業所(ぬくもり・青葉・東)合同の旅に計42名が参加しました。

ぬくもり事業所を出発後、本日のスケジュール紹介と今回訪れる新原奴山古墳群と宗像大社の説明がありました。車中、和んだところで、ふくし生協のパ

ンフで増資協力依頼・職員募集・三事業所紹介及び自己紹介へと話が進展。結果3名の新規加入がありました。

新原・奴山古墳群は最近、国指定史跡として整備保存、ロマンを掻き立てる41基の古墳群に圧倒されました。宗像大社の神宝館では貴重な神宝の数々を拝見、古代の歴史を学びました。お昼は「玄海若潮丸」で海の幸に舌鼓を打って満足です。

その後、ジャンケン大会で盛り上がる等、楽しいバスツアーでありました。

(文責・青葉支部 木下 研治)
(写真・ぬくもり 森光 則人)

フェスティバル北九州(帆柱二周年)

ほばしら祭りに五〇〇人

11月5日(日)、当日は雲一つない絶好のイベント日和。今回は帆柱二周年を祝うと共に、地域に感謝し開かれた当施設をアピールすることが目的です。

11時、毛利実行委員長が感謝の开会宣言。同時に大勢の人々が会場へ移動、たちまち大入満員です。

会場内は10張りのテントが並び、飲食物の屋台も人だかりで大盛況です。

屋外の一角には、今年も特設ステージが設けられて大賑い。出演の出演

を待つ人で混雑し、担当者も汗だくの嬉しい悲鳴です。

ステージイベントとして「和太鼓もも」によるオープンセレモニーの太鼓演奏でスタート。二番手は「うたごえ」北九州うたごえ創作合唱団が美しいハーモニーを披露。次に、カホロハワイアンによるフラダンス登場、その美しいこと。次は職員によるバナナのたたき売りです。次にソーラン会の踊り。英会話教室の子どもさんらが楽しく披露。ハモニカおじさんの演奏。じゃんけん大会、

久留米事業所「ラン伴プラス」に参加



11月5日(日)、久留米市にて「ラン伴プラス」という認知症についての啓発運動がおこなわれ、久留米事業所から利用者、その家族、職員が参加しました。当日は市内を3つのルートに分け、ゴールの久留米シティプラザ広場を目指して、タスキつないでいきました。当事業所から車イスの利用者、障がいを持った男性2名と一緒に約1キロを駆け抜けました。啓発運動を通じて「認知症であっても、障がいがあっても住みよいまちづくり」のために私たちもできる運動をしていきたいと改めてみなさんと一緒に感じました。

(文と写真・隅川所長)

職員による踊りと出し物が続き、最後の餅まきで終了。地域とのつながりを深めて盛況の内に終了しました。

(記・本部 世利)





フェスタ イン 福岡 西南組合員バスツアー

10月22日(日) 台風21号接近の中、西南事業所単独のフェスタとしての組合員バスツアーを実施しました。

10時、参加者20名は送迎バスで目的地の糸島老舗「初潮旅館」へ出発です。車中は和気あいあいのおしゃべりで揺られて1時間、無事到着。早速、大広場へ通されて懷石料理の新鮮な海の幸を大変美味しくいただきました。食後、温泉で湯ったりし、カラオケ大会も行いました。

その後、劇団「神楽」のお芝居、舞踏ショーの鑑賞で楽しく過ごしました。久方ぶりにリラックスできた有意義な一日でありました。

(記・梅野所長)



フェスタ イン 筑後 こくぶの杜に四〇〇人

11月12日(日)、こくぶの杜としては初めての筑後ブロックフェスタを開催しました。当日は天候に恵まれて好スタート。「職員と家族、地域と一緒に開催」をテーマに準備してきた結果、多くの方々の協賛をいただきました。福岡地区から参加の「音楽隊」演奏でスタート。家族会所属14名による「バンド演奏とゴスペル」、九州大会で優勝の「ひよっこ・キツネ舞」、子どもの「体験餅つき」、最後にビンゴ大会で大いに盛り上がりしました。この日の参加者数四〇〇人、これだけの地域の方々に支えられていることに感動を覚えた一日でした。

(記・隅川所長)



フェスタ イン 筑豊 赤とんぼ祭りに三〇〇人

11月23日(木・祝) フェスタ イン 筑豊として水巻町の当ふくし生協赤とんぼを会場にして「第12周年赤とんぼ祭り」が開催されました。

今回は水巻事業所開設12周年を祝う行事として、水巻・直方・嘉飯の3事業所による合同開催にしたものです。

当日は午前の部として頃末公民館を会場に、職員が仮装しお神輿を担ぎ町内を練り歩き、宗像太鼓の勇壮な演技、日本舞踊が披露されました。

午後から赤とんぼ事業所前広場で食バザー・ギターとマンドリン・ハーモニカ演奏で大いに盛り上がりました。

(記・本部 世利)



フェスタ イン 福岡 ミナミ祭りに二五〇人

11月12日(日) 快晴。かねてより準備中のフェスタ イン 福岡「ミナミ祭り」を実施しました。

11時、開会宣言と共に、夢エンタークラブによる手品・フラダンス・日舞・紙芝居・童謡・唱歌や長生き音頭の楽しい歌声や歓声が響き渡りました。あまり広くもない部屋はたちまち大勢の人であふれかえりました。

一方、屋外では「食バザー店」が大人気。おはぎ・おでん・豚汁・赤飯や黒豆昆布ごはんがズラリ。新鮮野菜の販売、震災復興支援物品販売、はな共同作業所の販売、不用品のバザーなど150人が楽しみました。

(記・ミナミ支部 水野 勇二)

第5回介護実践研修会開催!!

90名参加

「もう一度見つめ直そう、『それってホントにいいケア?』」



ら不適切ケアは発生してしまうことや、一方でそうした小さな部分を改善していけば不適切ケアはなくなっていくことを語っていただきました。さらに今回は座学だけではなくグループワークがおこなわれ、職員間のコミュニケーション力を高めるための実践的な内容となりました。



11月19日(日)に第5回となります介護実践研修会がTKP博多駅前シティセンターにて開かれました。当日は県内の事業所より90名が参加しました。今回は昨年度に引き続き虐待・不適切ケアについての研修を軸に「それってホントにいいケア?」というテーマを掲げました。

午前の部は最初に全事業所において実施した虐待の芽チェックリストの集計結果と水巻・けいちく・東の3事業所による事例報告がおこなわれました。今回は昨年よりも早い段階からアンケートに取り組んでいた

だき、集計した結果を基に問題点の改善を図る活動をおこないました。次にゲスト講師として福津市保健指導係係長の朝長弘美先生による講演がおこなわれました。朝長氏からは事業所からの虐待の芽チェックリストの結果が昨年と比べ大きく改善している点について高く評価していただきました。

また、不適切ケアに対する職員間の意識の違い、意見や課題を発言しづらい雰囲気など環境による影響が



午後の部からは参加者を3つのテーマごとの分科会に分け、研修がおこなわれました。第1分科会では「気づいていますか?それ虐待?」をテーマとした研修がおこなわれました。「ご利用者さんの尊厳と心理的虐待」・「職員のストレスコントロール」という2つのテーマを基に各班において活発な議論がおこなわれました。

第2分科会では「認知症ケア」についての研修がおこなわれました。隅川所長を講師として座学だけでなく

く体験的に認知症についての理解を深めていく研修となりました。中でも画面の絵を相手に言葉だけで伝える模擬体験では認知症の方の見える世界を体感し、より深い理解を得られたようでした。



第3分科会では「生協ホーム」を實際にもつ事業所の参加者によって実際に見たことのある不適切ケアを振り返り、なぜ防止できなかったのか、また防ぐためにどのような改善方法があるかについて個人やグループでの意見交流がおこなわれました。



今回の研修会では「虐待・不適切ケア」について改めて見直し、定期的に振り返りをおこなうことが重要である事が語られました。

参加した職員だけでなく、今回参加出来なかった職員の皆さんも日々の業務の中で気づいたり、感じた問題点を事業所全体で共有し、解決のために話し合う姿勢を定着させていくことでケアの質を高めていくことを期待します。

(写真・文 本部 世利)

「おせち料理」注文に感謝

—— あけまして おめでとう ございます ——

旧年中は、当給食センターの弁当をご利用いただきまして誠にありがとうございました。また、年末には恒例となっておりますお正月用「おせち」もご予約注文いただきまして重ねて御礼申し上げます。

本年も職員一同、頑張ってみります。お引立ての程よろしく願います。

(給食センター職員一同)

読者の声

▼いつも広報誌「ひやくさい」が届くのを首を長くして待っています。

(福岡市南区・竹中 多子)

▼老老介護でいろいろなあった年。家族が無事に年を越せることに感謝をし、また新しい年が平安であることを願っております。

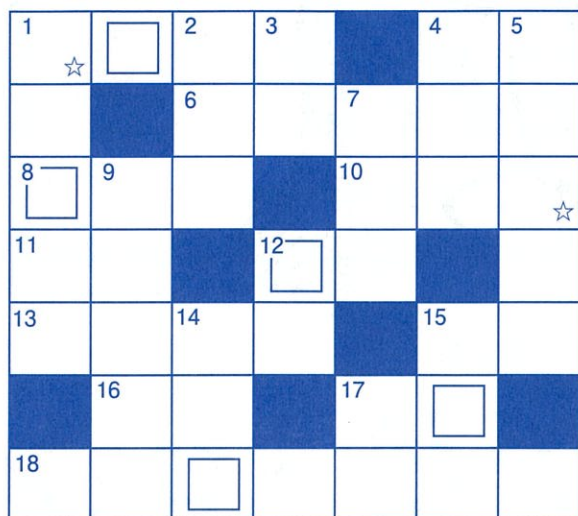
(福岡市早良区・林田 明代)

▼「ひやくさい」を愛読しております。百歳まで健康長寿を目指します。

(福岡市西区・岡井 二)

クロスワードパズル

39



▼タテ、ヨコの《カギ》に従ってマス目に言葉を入れてください。ただし、右下隅に☆のあるマスには漢字が入ります。タテ、ヨコで漢字の読みは違っています。すべてのマス埋め終わったら、二重マスの中の文字を並べ替えて、「ヒント」にふさわしい言葉を作ってください。それが答えです。

《タテのカギ》

- 1 ぐあいさつに行かなくちゃ
- 2 樹脂が地中で化石のようになったもの
- 3 いいことが続けて起きるのはー
- 4 悪いことが起きないように身に着ける物
- 5 その問題に直接関係する人
- 7 事業などを行うために方法・手順を考えること
- 9 初めてパパとママになる人はぜひ読んでね
- 12 社会の中での立場
- 14 非常に混んでいること、ダイヤ
- 15 素晴らしいものがたくさんある場所
- 17 甲の次、丙の前

《ヒント》新年あけましておめでとう

《ヨコのカギ》

- 1 長く生きて多くの経験を積んでいること
- 4 弓を引いて狙うのは？
- 6 音が何かにぶつかって跳ね返ってくること
- 8 カラオケはこれを手に
- 10 ギャンブル
- 11 何かを囲い込むもの
- 12 建てて5年のことを5年
- 13 団体などを運営する機関
- 15 海のパイナップルと呼ばれる三陸名物の海産物
- 16 衣服に付いた汚れ
- 17 将棋はこれを取られたら負け
- 18 グレンドを一気に滑り下りていきます

■前回の答えは「アカトンボ」でした。正解者多数につき、抽選で次の5人の方々にQUOカードを送りました。

◆八十八号クロスワードパズル当選者

- ・ 竹中 多子さん (福岡市南区)
- ・ 西村 光代さん (福岡市早良区)
- ・ 林田 明代さん (福岡市早良区)
- ・ 山口 範子さん (福岡市早良区)
- ・ 岡井 一さん (福岡市西区)

完成した言葉と「ひやくさい」の感想などをはがきに書いて、「ふくし生協・広報委員会クロスワードパズル係」まで2月10日必着。正解者の中から抽選で5人にQUO(クオ)カードを送ります。

※出題 (西日本新聞より引用)

漢字クイズの答(読み方)

- | | |
|-------|----------|
| ① アジ | ⑪ サワラ |
| ② タコ | ⑫ コノシロ |
| ③ イカ | ⑬ ハタハタ |
| ④ キス | ⑭ タラ |
| ⑤ ハモ | ⑮ スケトウダラ |
| ⑥ ハマチ | ⑯ アワビ |
| ⑦ カマス | ⑰ サメ |
| ⑧ サヨリ | ⑱ フカ |
| ⑨ シイラ | ⑲ シャチ |
| ⑩ スズキ | ⑳ クジラ |

▼何と住みにくい世の中になったんでしょう。特に年をとるほど本人が一番不安に思い、病気になるまい、人に世話をかけまいと努力しているのに、それでもいつか人の手をかりないと生活出来ない日がくるでしょう。そのために、年金や介護の保険をかけているのに、それが使えない改悪では詐欺と同じです！

(福岡市早良区・西村 光代)

▼ちよっぴり早い年賀状。今年も300枚完成。色んな犬を描くことができました。

(遠賀郡水巻町・江上 淑子)

▼最近、グラウンドゴルフとゲートボールの違いを知りました。グラウンドゴルフ大会が雨で中止になり、まだ経験していませんが、次回はやってみたいと思っています。

(福岡市早良区・かりん)

▼先号「シリーズ人生の高齢期を考えるNo.32」では、歯の健康についてくわしく書いてあったので、すぐく勉強になりました。歯の健康診断のため歯科に2ヶ月に一回は行くようにしたいと思っています。

(福岡市西区・定松フサ子)

▼「ひやくさい」のシリーズ「高

齢者を考える」はいつも読んでいます。本当に大変な問題が途切れることなく出てきますねえ。とつくに樂隠居のおばあちゃんの年令になっているのに、自分達の介護問題が不安！です。

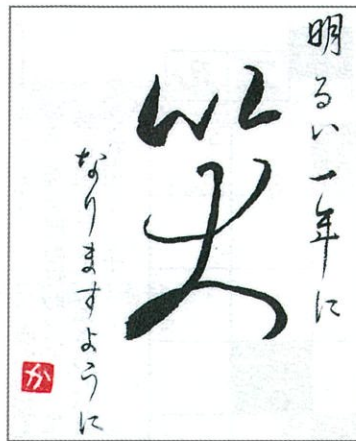
(福岡市東区・菊川ゆみ子)

▼毎回いろいろと勉強させて頂き、ありがとうございます。先の11月12日、ミナミフェスタを開催して頂き楽しく過しました。出演された皆様方の熱演に元気をもらいました。これからも頑張っていきます。

(福岡市南区・丸山 玉枝)

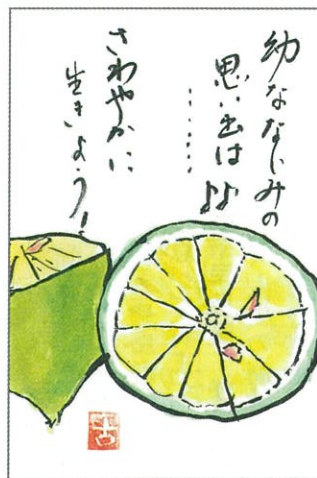


▲ほのぼの消しゴム版画作品
(版:加治美千代 字:鶴田輝子)



▲大楠 薫(城南区)

ご投稿ありがとうございます。



▲古賀信子(水巻町)



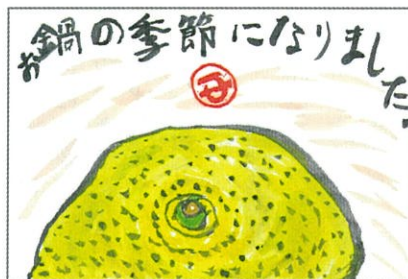
▲宮崎房恵(水巻町)



▲益田ハルカ(水巻町)



▲三笠郁枝(水巻町)



▲上杉由美子(水巻町)



▲古積三重子(水巻町)



▲江上淑子(水巻町) 愛犬「嵐」メス6歳22キロ

投稿俳句と川柳・短歌

俳句

丸山玉枝 (ミナミ・デイスリーブス)

秋晴れの 光の中で ウォーキング
秋時雨 しとしと肌に 冷たけり
もくせい の 香りほのかに 秋来たる

川柳

好 (ミナミ・デイスリーブス)

つわの花 道しるべにし キノコ狩り
千柿は 愛と寒さで 甘さ増し
ボケの花 剪定し過ぎ 二輪咲き
伊藤幸雄 (給食センター)

髪なおす 孫の姿は もう女

この世には 未練は無いと 医者通い

妻の愚痴 酒の肴に ボランティア

磯山直助 (福岡・原さん家)

白鷺は 強いだけぞな 見あきたぞ

山口範子 (福岡・原さん家)

仏壇に 供えて嬉し みかん狩り

幸わせが じんと伝わる 孫の指

短歌

好 (ミナミ・デイスリーブス)

校庭の花と落葉を楽しみて

脂肪減らしのせいたく散歩

「H」のせいじな

先号No.88号の6ページ「憲法とわたしたち」3段目1行で積極的であるのは消極的の誤りでした。ここは、文全体でも重要な論点です。

謹んで訂正し、お詫び申し上げます。
(広報委員会)